

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 第 号	氏 名	小林 周
<p>主論文題目： リビア内戦とサハラ砂漠周辺地域の不安定化： 秩序の崩壊がもたらした「負の連鎖」の分析モデル構築</p>			
<p>(内容の要旨)</p> <p>本論文は、広大な空間における複合的・連鎖的な危機を読み解くための「負の連鎖」の分析モデルを構築・提案するものである。そして、2011年のカッザーフィー政権崩壊後に政治・治安情勢のリビアの不安定化、また、リビアの不安定化がサハラ砂漠周辺地域の政治・治安情勢に与えた影響についての分析モデルの適用による、モデル有効性の検証を行ったものである。</p> <p>リビアでは、2011年の内戦とカッザーフィー政権崩壊によって国家機構が破壊された。その後の国家機構再建の過程で政治対立が激化し、新政権が中央集権化と暴力の独占に失敗したことで、民兵組織や部族、少数民族といった非国家主体が台頭し、独自に権益を支配するようになった。政府の脆弱な統治は治安の悪化や国境管理の弛緩を招き、内戦中からリビア国内に浸透していたイスラーム過激派組織が活発化し、一時は「イスラーム国」が領域支配を行うまでになった。</p> <p>サハラ砂漠周辺地域では、リビアの不安定化が波及する形で、武器やドラッグの拡散、過激派の台頭、武装勢力の領域支配、移民・難民の増加といった事象が連鎖的に発生した。これらを受けて、リビア周辺に国家の統治がおよばない「非統治空間」が越境的に発生した。さらに、人為的な事象のみならず、気候変動に伴う旱魃や洪水が紛争や人の移動を活発化させた。これらの複合的かつ広域的な事象によって、サハラ砂漠周辺諸国において、過激派組織や犯罪組織などの非国家暴力主体の活動拠点と移動経路が構築された。</p> <p>リビアにおいてもサハラ砂漠周辺地域全体においても、安定化には多くの障壁がある。これらの複合的かつ広域的な問題を解決するためには、不安定化の「連鎖」を断ち切り、地域におけるガバナンスのあり方を捉え直し、多様な主体をガバナンス構築に参加させ、統治秩序を再建するための取り組みが必要となる。</p> <p>キーワード： 国際政治、国際安全保障、リビア、サハラ砂漠周辺地域、「非統治空間」</p>			